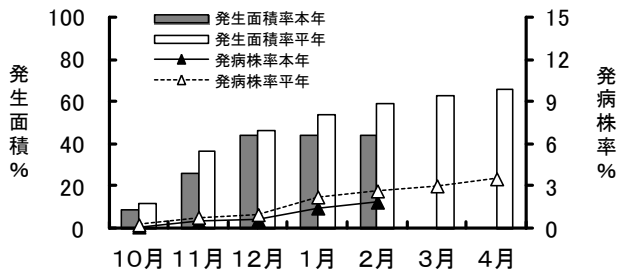


平成25年3月4日

高知県病害虫発生予察2月月報及び予報第12号(3月) 野菜類ダイジェスト版

● 抑制・促成キュウリ(中央部・中西部・西部)

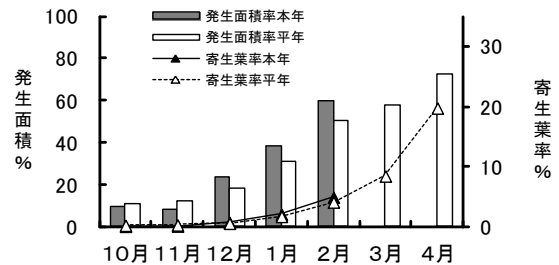
黄化えそ病 発生量: やや少



キュウリ(抑制・促成栽培)における黄化えそ病の発生推移

黄化えそ病はやや少ない発生となっています。今後は気温も上昇し、媒介虫のミナミキイロアザミウマの増加が懸念されます。発病株は伝染源となることから、できるだけ除去し、ミナミキイロアザミウマの防除に努めてください。

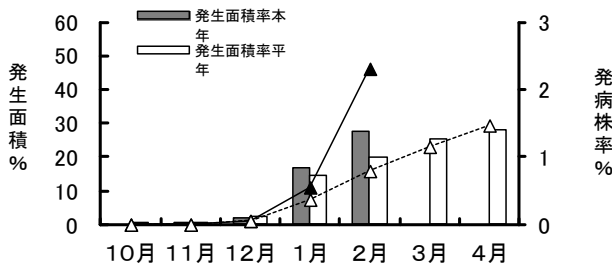
ミナミキイロアザミウマ 発生量: 平年並



キュウリ(抑制・促成栽培)におけるミナミキイロアザミウマの発生推移

ミナミキイロアザミウマは、平年並の発生となっています。生長点部にいる場合は見つけにくく、薬剤もかかりにくいことや、密度が高くなると防除が困難となることから、初期防除の徹底及び丁寧な散布を心がけてください。

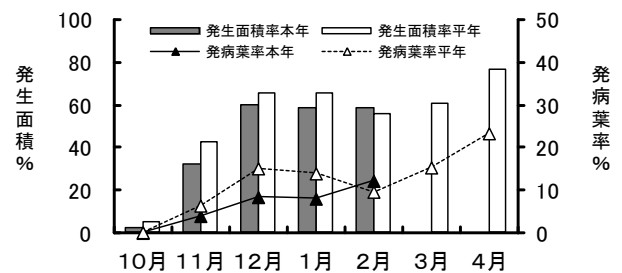
つる枯病 発生量: 平年並



キュウリ(抑制・促成栽培)におけるつる枯病の発生推移

つる枯病は、全体的には平年並の発生となっていますが、県中央部でやや多い発生となっています。ほ場によっては多発しており、今後の拡大が懸念されます。今後は、現在の発生状況からやや多発生で推移すると思われるので、早期発見して防除を行うとともに、適正な温湿度及び肥培管理により草勢の維持を図ってください。

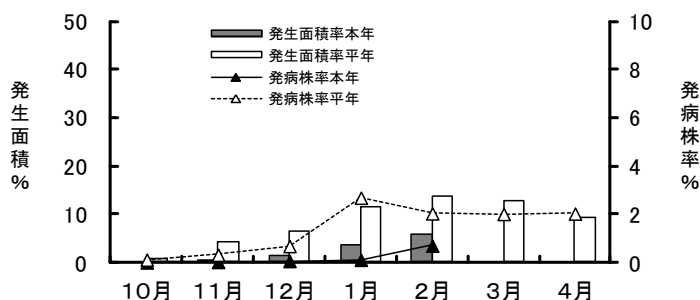
べと病 発生量: 平年並



キュウリ(抑制・促成栽培)におけるべと病の発生推移

べと病は平年並の発生となっています。今後も、平年を超えるような大きな増加はないと思われますが、蔓延すると、薬剤散布による防除は困難となりますので、早めに発見して防除を行うとともに、適正な温湿度及び肥培管理により草勢の維持を図ってください。

褐斑病 発生量: 少



キュウリ(抑制・促成栽培)における褐斑病の発生推移

褐斑病は全体的に少発生となっています。

向こう1ヶ月予報では、気温は高く、降水量は平年並からやや少なく、日照時間は平年並が多いと見込まれます。今年度は発生が少なく、今後急激に伸展する可能性は少ないと思われますが、本病は、蔓延後の薬剤散布による防除が困難となりますので、発見した場合は、できるだけ早めに防除に取り組んでください。

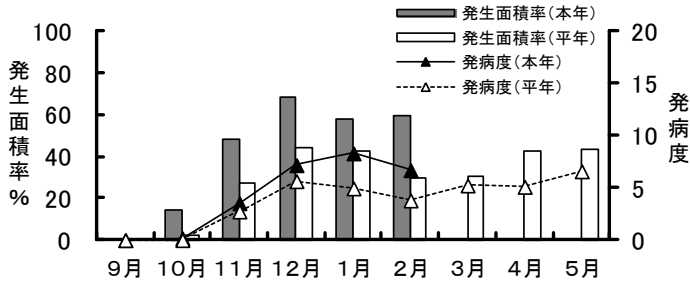
平成25年3月4日

高知県病害虫発生予察2月月報及び予報第12号(3月)

野菜類ダイジェスト版

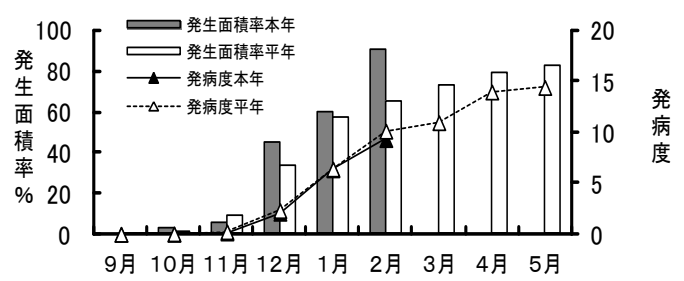
● 促成ナス(東部・中央部・西部)

黒枯病

発生量: 多

ナス(促成栽培)における黒枯病の発生推移

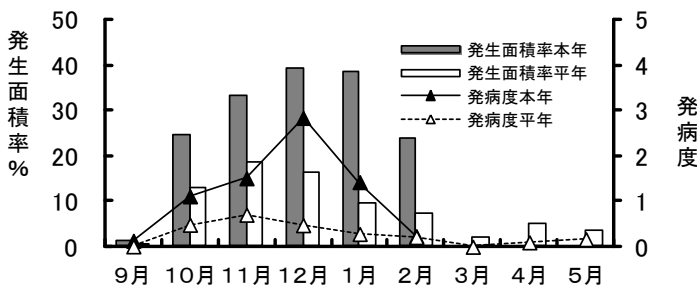
すすかび病

発生量: やや多

ナス(促成栽培)におけるすすかび病の発生推移

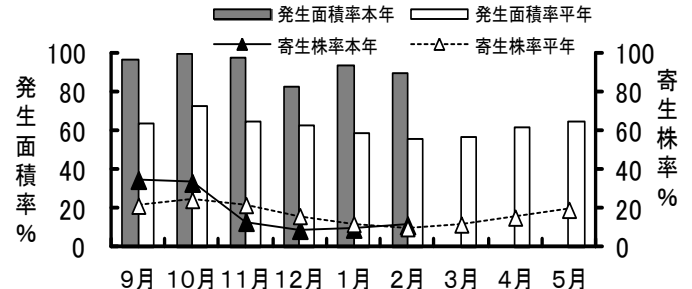
黒枯病は県東部と中央部で発生面積が多発生で、発生程度も高いです。すすかび病は発生程度は平年並ですが発生面積が非常に高くなっています。向こう1ヶ月予報で気温は低く、晴れの日が多いことが見込まれ、病勢を助長する要因は少ないですが、両病害ともに蔓延すると防除困難となるので初期防除に努めてください。また、急激な温湿度及び肥培管理は草勢低下を招き、病勢を進展させるので避けましょう。

うどんこ病

発生量: 多

ナス(促成栽培)におけるうどんこ病の発生推移

タバココナジラミ

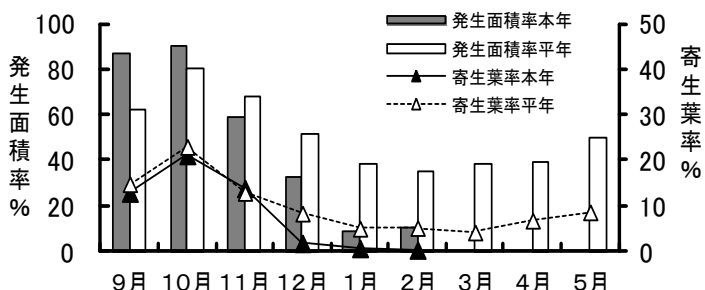
発生量: やや多

ナス(促成栽培)におけるタバココナジラミの発生推移

うどんこ病は先月より発生面積は減少したものの、県全域で平年に比べ多発生です。しかし、発病の程度は低く抑えられています。ハウス内の温度上昇に伴って病勢を助長することがないよう、適度な温湿度管理と草勢の維持に努めてください。

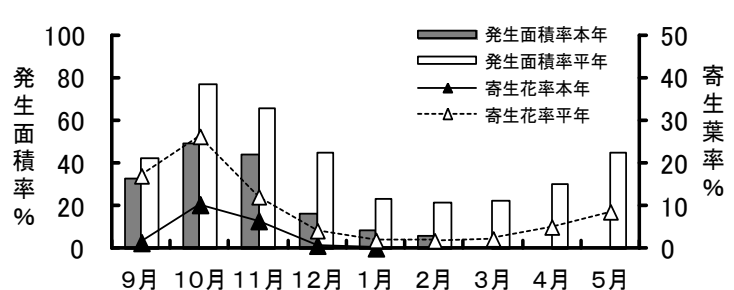
タバココナジラミは、県東部から中央部にかけて発生が多く見られますが、発生の程度は低く抑えられています。天敵導入ハウスで発生が多くなる場合には、微生物製剤や選択性殺虫剤等での防除などが必要な場合があります。

ミナミキイロアザミウマ

発生量: 少

ナス(促成栽培)におけるミナミキイロアザミウマの発生推移

ヒラズハナアザミウマ

発生量: 少

ナス(促成栽培)におけるヒラズハナアザミウマの発生推移

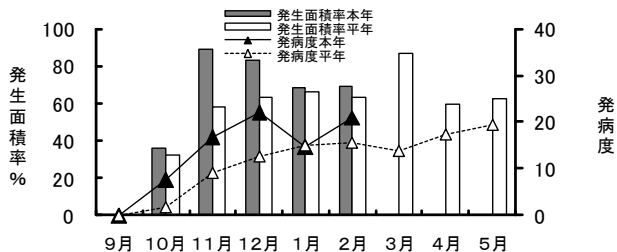
アザミウマ類は先月に引き続き、発生面積・程度ともに平年より少発生となりました。主なナス産地である県東部を中心に、天敵の定着により寄生密度を低く抑えています。しかし、ミナミキイロアザミウマが発生している場合は、ハウス内の温度上昇に伴って果実被害の増加が懸念されます。薬剤防除にあたっては、感受性低下を防ぐために同一薬剤及び同系統の薬剤の連用は避け、丁寧な散布を心がけてください。

平成25年3月4日

高知県病害虫発生予察2月月報及び予報第12号(3月) 野菜類ダイジェスト版

● 促成ピーマン・シシトウ(東部・中央部・中西部)

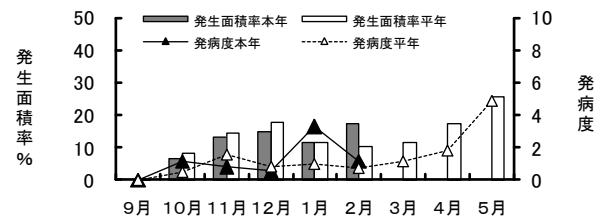
うどんこ病 発生量: 平年並



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるうどんこ病の発生推移

全般的に平年並の発生となっています。向こう1ヶ月予報では気温はやや高く、晴れの日が多いと予想されており、今後も現状の発生状況推移すると予想されます。硫黄くん煙器を設置している場合は、状況に応じて稼働時間を調節しましょう。

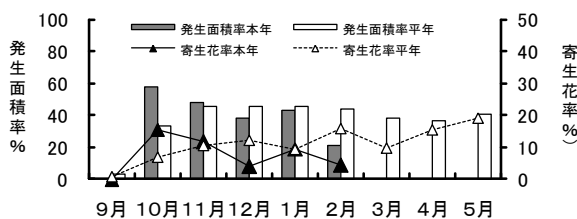
黒枯病 発生量: やや多



ピーマン・シシトウ(促成栽培)における黒枯病の発生推移

全般的にやや多発傾向が続いており、県中央部では多発生となっています。斑点病も同様の傾向が見受けられます。蔓延すると防除が困難になるので、予防散布及び初期防除に努めてください。なお、薬剤のローテーションを行い抵抗性の発達を回避してください。

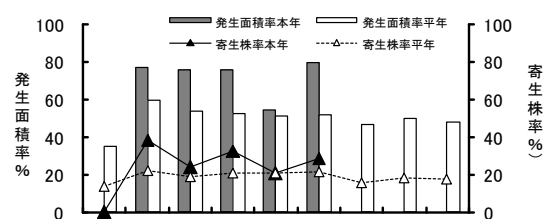
ミナミキイロアザミウマ 発生量: 少



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるミナミキイロアザミウマの発生推移

県東部ではやや多発傾向ですが、全般的には少発生となっています。日差しが強くなるに従って、急に寄生密度が高くなりやすいので、天敵の状況と合わせて注意してください。薬剤散布を行う場合には、剤のローテーションおよび天敵への影響を十分考慮して使用薬剤を選定してください。

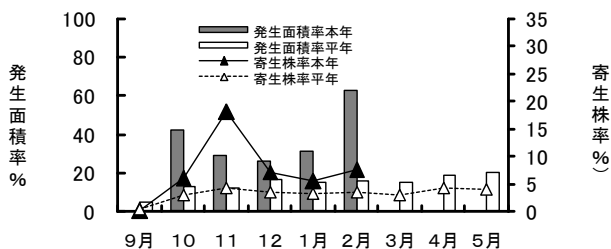
タバココナジラミ 発生量: やや多



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるタバココナジラミの発生推移

全般的にやや多発生となっています。スワルスキーカブリダニが定着しているハウスでは、コナジラミの成虫が低密度で見られるくらいなら、問題とならない程度と考えられます。薬剤防除を行う場合には、天敵への影響を十分考慮して薬剤を選定してください。

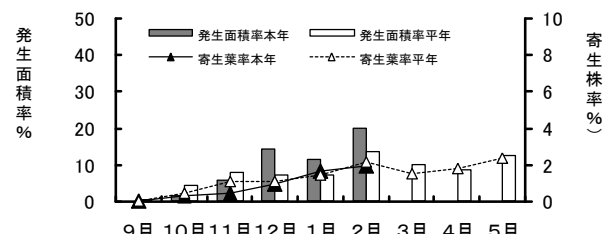
アブラムシ類 発生量: 多



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるアブラムシ類の発生推移

県下全域で多発生となっています。密度が高くなると防除が困難となりますので、低密度時からの防除に心がけてください。天敵導入ハウスでは、ヒゲナガアブラムシ類の発生に注意しましょう。発生の場合は天敵に影響の少ない農薬を選定しましょう。

ハダニ類 発生量: やや多



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるハダニ類の発生推移

県東部で多発生、全般的にもやや多発生となっています。密度が高くなると防除が困難となりますので、低密度時からの防除に心がけてください。また、防除に際しては天敵への影響を十分考慮して薬剤を選定してください。

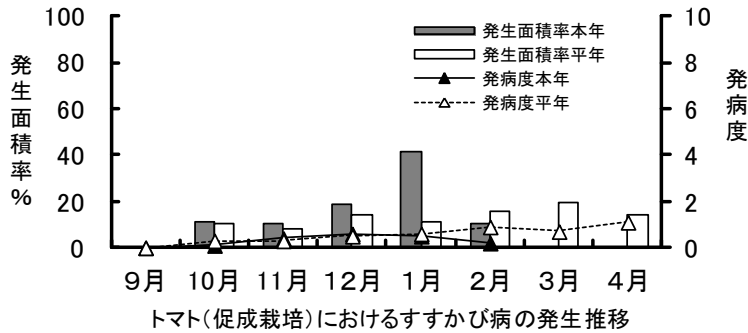
平成25年3月4日

高知県病害虫発生予察2月月報及び予報第12号(3月)

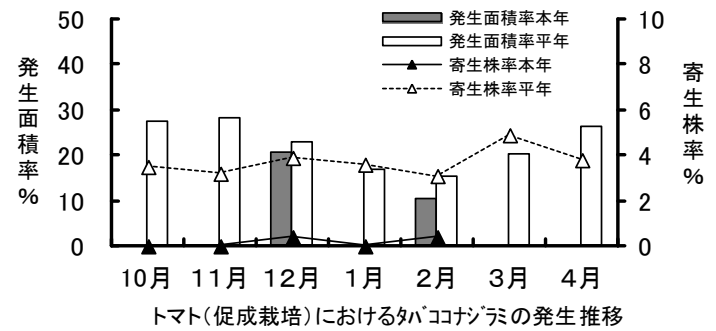
野菜類ダイジェスト版

● 促成トマト(中央部)

トマト黄化葉巻病(TYLCV) 発生量: 平年並

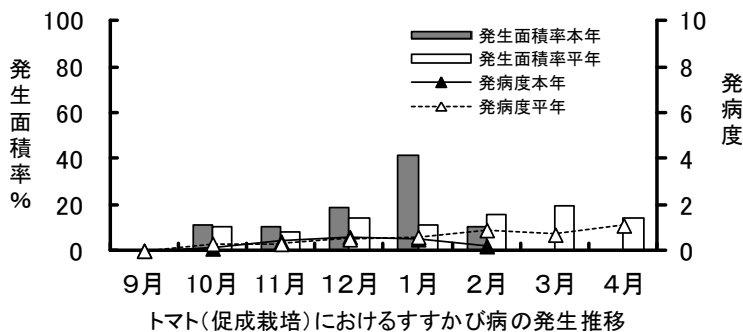


タバココナジラミ 発生量: やや少

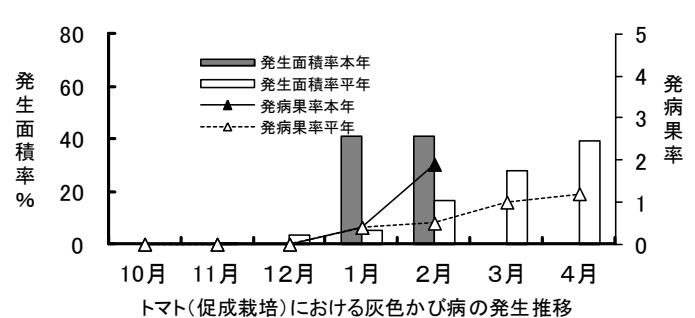


黄化葉巻病の発生面積は平年並に推移しています。媒介虫のタバココナジラミの発生面積はやや少ですが、今後気温の上昇に伴い野外からの飛び込みが多くなる可能性がありますので、施設内での増殖にご注意ください。併せて、既発ほ場では新たな発病株の早期除去に努めましょう。

すすかび病 発生量: やや少

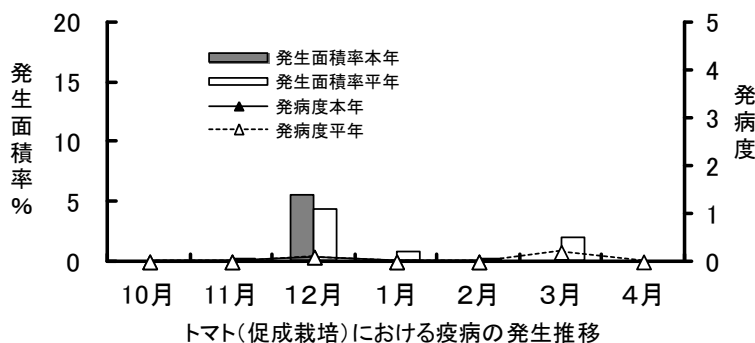


灰色かび病 発生量: 多



すすかび病は平年よりやや少ない発生で、灰色かび病は多発生となっています。向こう1ヶ月予報では、気温は高く、天気は平年に比べ晴れの日が多いと見込まれ、上記のような病害が急激に伸展することはないと思われますが、多湿条件が多発の要因となることから、換気を十分に行い、適正な温湿度管理に留意してください。

疫病 発生量: 少



疫病は平年に比べ少発生となっています。向こう1ヶ月予報では、気温は高く、降水量は平年並からやや少なく、日照時間は平年並みか多いと見込まれ、上記のような病害が急激に伸展することはないと思われますが、急な冷え込みなどにより、ハウス内湿度が高くなると発病が助長されますので、温度管理や湿度管理を十分に行い、適正な温湿度管理に留意してください。